

採択事業 No.3

種 別：行政提案型事業

団体名：宝塚温泉まつり実行委員会

事業名：宝塚温泉まつりを軸に“自然の恵みと景観”を
次世代に継承しコミュニティを発展させる事業

交付決定額：500,000 円

(事業を行おうとした動機)

かつて“神々に選ばれし”栄えた宝塚温泉。今も湧き出る炭酸。武庫川や里山からの“自然の恵み”。武庫川両岸から見る景観。時代が変わろうと市民の共有財産であり子どもたちに継承すべき“お宝”である。まちづくり協議会地域交流部会では「地域の魅力再発見！親子で名所旧跡まちあるき」を5年間継続、参加者は毎回120人。昨年は一小育友会との連携、旧温泉街の今昔ポイントを親子で探索するイベントに参加者140人。5つのニーズが可視化されました。

- ①温泉街として栄えた歴史を地元住民は知りたい。(震災後マンション街に約1万人転居)
- ②武庫山の森や不動ノ滝等、徒歩圏内に手つかずの自然や発掘に値する景観が多くある。
(まち山に猪が生息し、修験道の行者たちが修行した滝が数本、当時そのまま現存する)
- ③塩尾寺、宝塚聖天住職さんなど語り部が地域で暮らしまちの履歴が聞ける。
- ④宝塚公会堂に保存されている「子ども神輿」を児童たちが「担ぎたい」と言い出した。
- ⑤武庫川右岸を県と市が芝生化整備し市民が景観を楽しみ、ラジオ体操など利活用始めた。

この5つが動機となり、まち協の地域交流ネットワーク会議(昨年8月)で、悲願だった「宝塚温泉まつり」の再興が提案され、市民有志が令和3年5月にまつり開催へ向け始動。地元自治会、塩尾寺、ホテル若水(旅館組合)を巻き込み実行委員会が2月に発足。緊急事態宣言もあり5月5日は塩尾寺で関係者の法要、7月25日に本イベント開催に至りました。

(事業を行う目的と期待される効果)

事業の目的は、第一に次世代を担う子どもたちに、温泉の歴史・文化、自然の恵みに感謝する心を継承する事。第二は地域コミュニティの発展。温泉の歴史を知る住民、震災後転居したマンション街の約1万人の住民、2025年に宝塚ホテル跡に転入する650世帯の新住民がまつりを軸に「協働のまちづくり」を展開することで、第6次総合計画「基本構想・基本計画」と「一小地域ごとのまちづくり計画重点課題」の推進効果が期待されます。

(1) 本事業と「第6次総合計画(基本構想・基本計画)」への推進効果

- ①多世代市民主体で関わる←基本構想1都市経営共に創り未来につなぐまち=市民自治協働
- ②幼い時から自然や景観に触れ、祭りに参加することで、故郷への愛や誇り=自尊感情を育むことができる←基本構想4子どもの生きる力が育つまち「豊かな自然で遊び学び心豊か」

③武庫川左右両河川敷で温泉まつり←基本構想 5-1 都市景観「宝塚らしさを感じる景観」の魅力向上

④左岸は宝塚歌劇やアートセンター、右岸は芝生整備を契機に市民が広場として利活用。回遊プロムナード構想へ付加価値をつけ中心市街地の再生に寄与する可能性←基本構想 2 河川の整備や土砂災害対策、憩いや安らぎある水辺空間←基本計画 2-4 南部地域の持続的まちづくり、地域特性を踏まえながら駅周辺への多様な都市機能の誘導の促進。

⑤徒歩圏内に自然や発掘に値する景観紹介←5-2 緑化・公園、里山・まち山の保全・再生

⑥市民がまちの魅力発信し関西エリアからの個人観光を喚起←6-1(2)観光資源の発信

(2) 本事業と「一小地域ごとのまちづくり計画重点課題」への推進効果

①祭りで若き担い手育成する←重点4「次世代を育む」中高生が地域で活躍する場づくり

②地域の魅力再発見事業を引き続き継続し昔を知る住民と震災後のマンション街の住民との交流が促進←重点2「地域をつなぐ」マンション居住者と情報共有・コミュニケーション

③コミュニティの核となる祭り再興で歴史文化の継承←重点1 継承と発展(歴史・文化・環境・賑わい) 武庫川右岸まちづくり、多世代交流、文化歴史に触れ地域への愛着と誇り醸成

④児童用の湯のまちの歴史の冊子・地域資源を発掘した映像発信・協働のまちづくり提案。景観フォーラム←将来像「宝塚市の都市計画と連携し環境・景観が保全された地域づくり」

(事業の内容)

(1)「宝塚温泉まつり」

地元自治会、塩尾寺、旅館組合(ホテル若水)、アサヒ飲料(ウイルキンソン)協力

①塩尾寺で祈願法要(温泉組合と地元自治会参加) 丁字ヶ滝に湧く源泉を関係者で運ぶ

②武庫川河川敷で本イベント(右岸と左岸を活用)

・内容は温泉街の写真展示、炭酸(ウイルキンソン)の歴史ブース

・宝塚音頭を覚え総踊り、子ども神輿のパレード復活

・青少年、障害者グループの表現の舞台 音楽・パフォーマンス広場

・「あそびがそだつ こどもがつくる」をテーマのこどもあそび場広場

・地域諸団体ブース アート、けん玉手づくり体験、紙芝居、段ボール遊び

③日程は宝塚温泉開湯 2021年5月5日(祝) 午前(祈願法要) 午後(本イベント)

緊急事態宣言もあり、本イベントは7月25日13時~16時に延期して開催

④参加予定人員 実行委員は30人、親子500人参加予定(実際は700人参加)

⑤まつりの準備

・主な日程

2020年

8月10日 地域交流ネットワーク会議「河川敷活性化」で温泉まつり復活採択

8月29日 宝塚自治会発起人会

10月30日 塩尾寺 河原住職趣旨説明

2021年

- 1月20日 ホテル若水 小早川社長趣旨説明
- 2月28日 宝塚温泉まつり発足式（丁字ヶ滝・源泉前） 会則承認
- 3月22日 宝塚音頭練習会（25人） 宝塚公会堂
- 4月2日 子ども御輿づくり（18人） 宝塚公会堂
- 4月11日 第1回宝塚温泉まつり実行委員会（23人） 危機管理、役割分担
- ・世話人会、実行委員会事前打ち合わせ 24回
- ・行政、協力者、関係者打ち合わせ 13回

⑥宝塚温泉まつりは武庫川右岸左岸で2022年以降も毎年開催

- ・毎年5月5日開催 予算60万円～100万円
- ・人員と参加者と広報
 - 実行委員が50人体制になれば一般参加者800人（2022年）
 - 実行委員が100人体制になれば一般参加者2000人（2023年）
- ・ブース参加の諸団体は広げてゆくが一般参加者への広報は調整する

（2）景観や自然を感じる体験まちあるき継続

①一小まち協地域交流部会、景観まち歩き会、宝塚検定博士の会などとコラボ

②児童向け、シニア向け、マンション向けなど対象を決めプログラム化

（3）宝塚温泉の歴史と自然の恵みを伝える児童むけ写真イラスト集発行

- ・児童用「湯のまち たからづか歴史の冊子」
- ・発行予定日 令和3年3月発行
- ・準備企画会議4回 構成会議4回
 - 地域資源調査と写真撮影ロケーション3回、監修講師打ち合わせ2回
- ・温泉（炭酸泉） ・景観に関する写真や資料など著作権クリア作業
- ・デザイナーレイアウト打ち合わせ3回、挿絵打ち合わせ2回

（4）地域資源を発掘した映像発信

- ・2022年予定の事業
- ・発掘に値する景観、まち山に猪・鹿が生息、修験道の行者たちが修行した現存する滝
- ・宝塚温泉の歴史アーカイブ、まつりの歴史を記録する